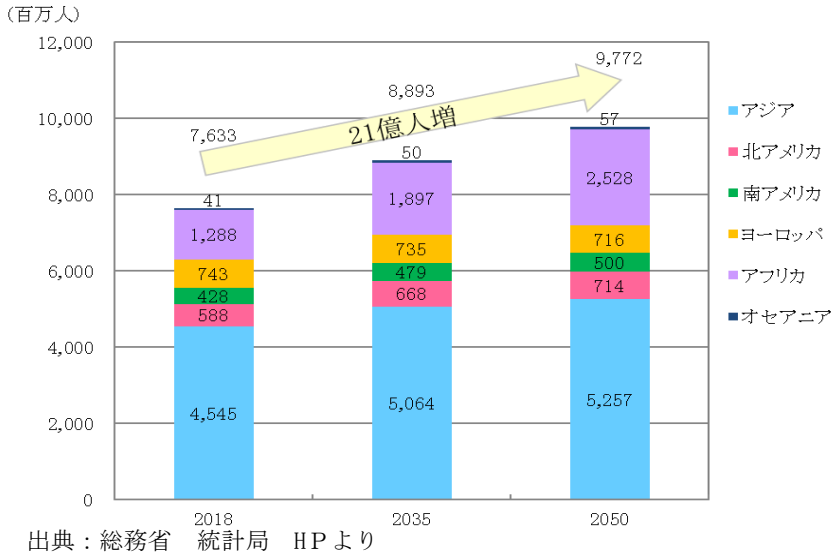
第2章 小樽港を取り巻く情勢・関連計画

2.1　国内外の情勢

2.1.1 世界の人口と GDP の動向

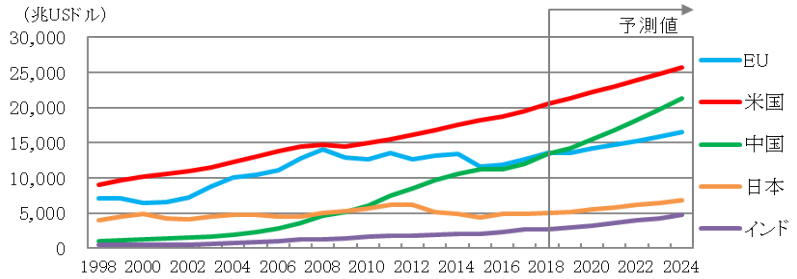
世界の人口は、アジア・アフリカを中心に拡大し、2035 年に 89 億人、2050 年には 98 億人へと、今後 32 年間で 21 億人増加する見通しであり、アジア等の消費市場の拡大が想定される。また、世界各国や地域では相対的に我が国よりも高い経済成長が継続していくことが想定される。

本港の対岸に位置するロシア、韓国においても、今後高い経済成長が見込まれている。



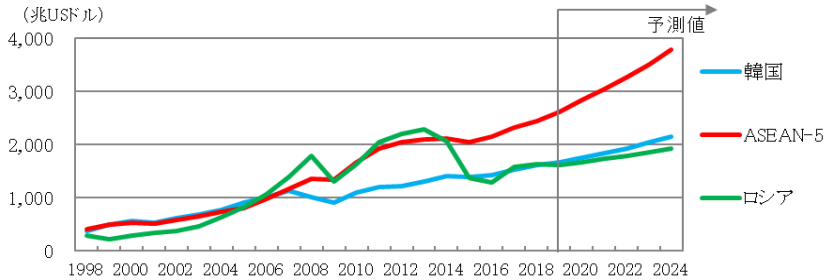
出典：総務省　統計局　HP より

図 2.1.1　世界の将来人口の予測



出典：International Monetary Fund, World Economic Outlook Database, April 2019

図 2.1.2　主要国・地域の名目 GDP の推移



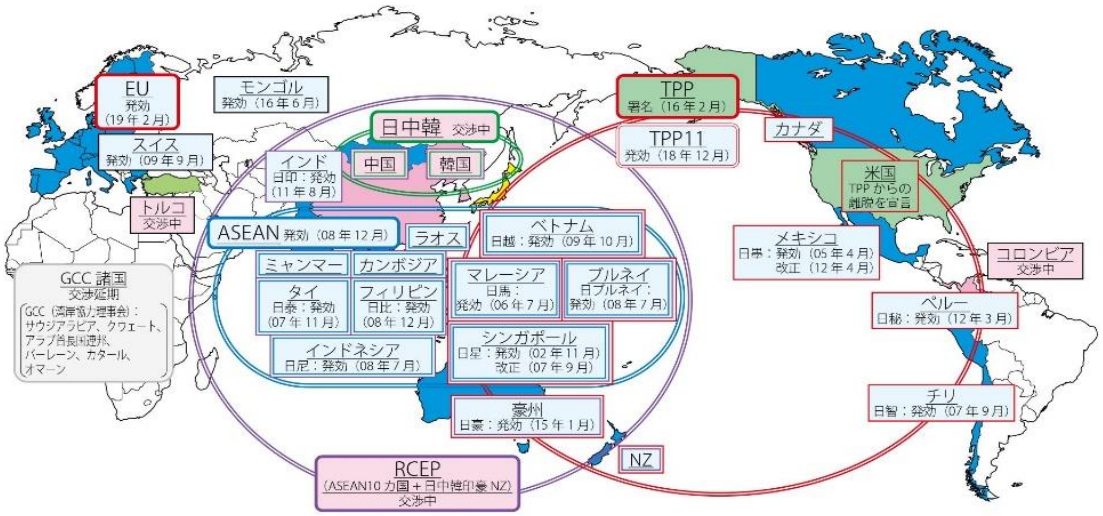
※ASEAN-5:インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムの 5 か国
出典：International Monetary Fund, World Economic Outlook Database, April 2019

図 2.1.3　対岸の主要国の名目 GDP の推移

2.1.2 経済連携協定の状況

世界各地域において、経済連携に関する協議が進められており、TPP については、2015 年に大筋合意したが、2017 年 1 月に米国が脱退を表明し、牛肉については、関税率 38.5%が 16 年目に 9%まで削減される。

日米貿易協定は、2019 年 9 月に農林水産品に係る日本側の関税について、TPP の範囲内での最終合意した。



出典：令和元年版　通商白書(経済産業省)

図 2.1.4　日本の経済連携協定の推進状況(2019 年 3 月現在)

2.1.3 港湾の中長期政策 『PORT 2030』

国土交通省港湾局では、2030 年頃の将来を見据え、我が国経済・産業の発展及び国民生活の質の向上のために港湾が果たす役割や、今後特に推進すべき港湾政策の方向性等を、「港湾の中長期政策『PORT 2030』としてとりまとめた。また、中長期政策の方向性として、8 つの施策が示されている。

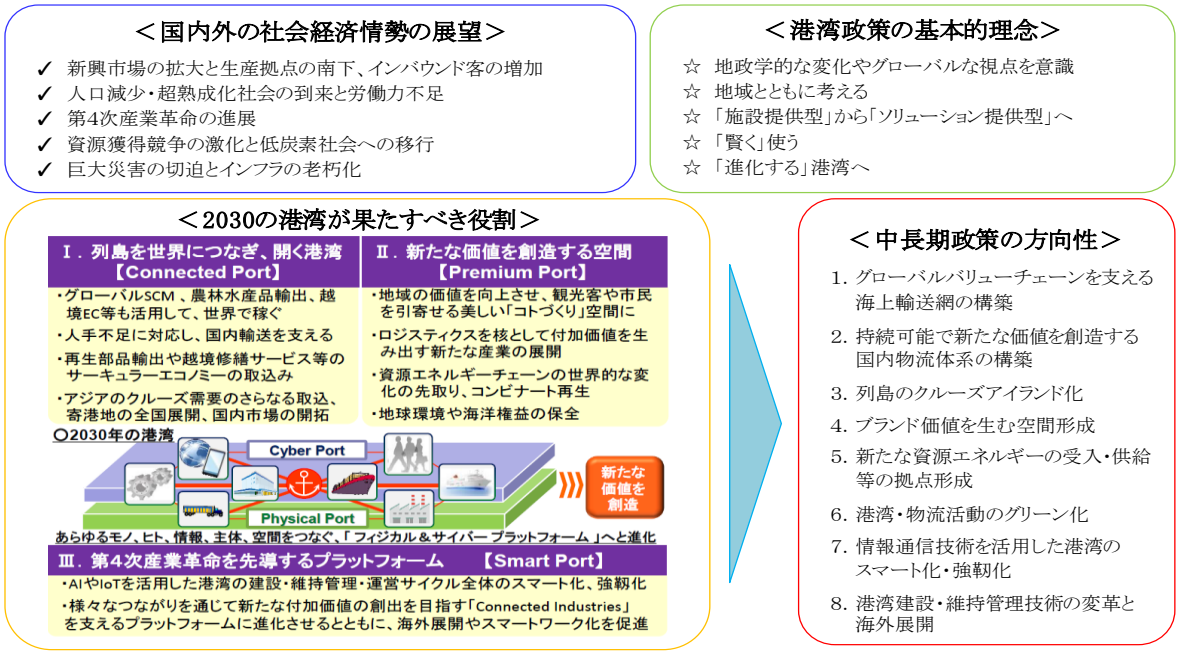


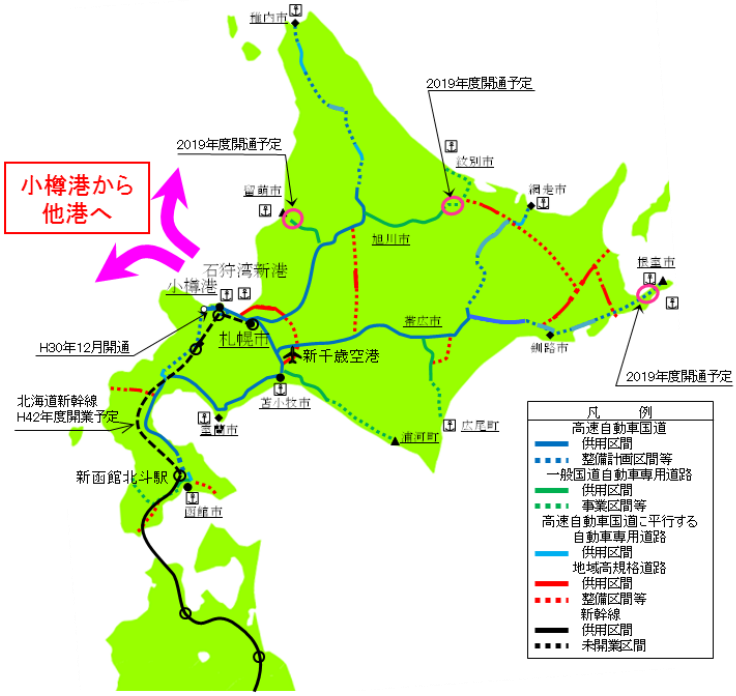
図 2.1.5　港湾の中長期政策 『PORT 2030』

2.2　北海道の情勢

2.2.1 高規格道路

北海道横断自動車道の余市～小樽間は、平成 30 年 12 月に開通し、札幌中心部から余市までの所要時間が約 19 分短縮され、利便性が向上した。さらに、小樽ジャンクションのフル化の整備が始まっており、完成後には、小樽中心部からの利便性も向上する。

また、余市～倶知安間についても事業着手され、高規格道路が開通すると大型車通行支障箇所(狭小トンネルなど)が解消され、物流の効率化が図られる。



出典：北海道開発局資料

図 2.2.1　北海道の交通網

出典：NEXCO 東日本

図 2.2.2　北海道横断自動車道

2.2.2 北海道新幹線

新青森駅から新函館北斗駅の区間は、平成 27 年度末に開業、新函館北斗駅から札幌駅の区間は、平成 24 年に認可・着工され、令和 12 年度末の開業を目指している。

また、新小樽(仮称)駅が設置されることで、東京駅から乗り換えなく小樽まで約 5 時間で到着することができ、全国の各都市と高速ネットワークで結ばれることで、新たな経済交流、周遊観光による地域経済の活性化などが期待される。

出典：北海道 HP

図 2.2.3　北海道新幹線のルート

表 2.2.1　新小樽(仮称)駅から各主要新幹線駅までの所要時間

駅　名	所要時間（新幹線開業後）	［参考（現在）］小樽駅からの所要時間
札幌駅	約 12 分	約 32 分
倶知安駅	約 13 分	約 1 時間 8 分
新函館北斗駅	約 52 分	約 4 時間 6 分
新青森駅	約 1 時間 53 分	約 5 時間 35 分
盛岡駅	約 2 時間 46 分	約 6 時間 32 分
仙台駅	約 3 時間 29 分	約 7 時間 12 分
大宮駅	約 4 時間 37 分	約 8 時間 20 分
東京駅	約 5 時間 2 分	約 8 時間 43 分

出典：新幹線の所要時間は、「国土交通省
平成 24 年 3 月開催第 9 回整備新幹線
小委員会配布資料」から作成

表 2.2.2　北海道新幹線の整備概要

区　間	新青森～新函館北斗間	新函館北斗～札幌間
開業（予定）	平成 28 年 3 月 26 日	令和 12 年度末
工事延長	約 148km	約 212km
経過地	【青森県】 青森市・蓬田村・外ヶ浜町・今別町・中泊町 【北海道】 福島町・知内町・木古内町・北斗市・七飯町	北斗市・厚沢部町・八雲町・長万部町・黒松内町・蘭越町・豊浦町・ニセコ町・倶知安町・仁木町・赤井川村・余市町・小樽市・札幌市
駅	【新青森駅(既設)】 奥津軽いまべつ駅・木古内駅・新函館北斗駅	【新函館北斗駅】 新八雲(仮称)駅・ 長万部駅・ 倶知安駅・新小樽(仮称)駅・ 札幌駅

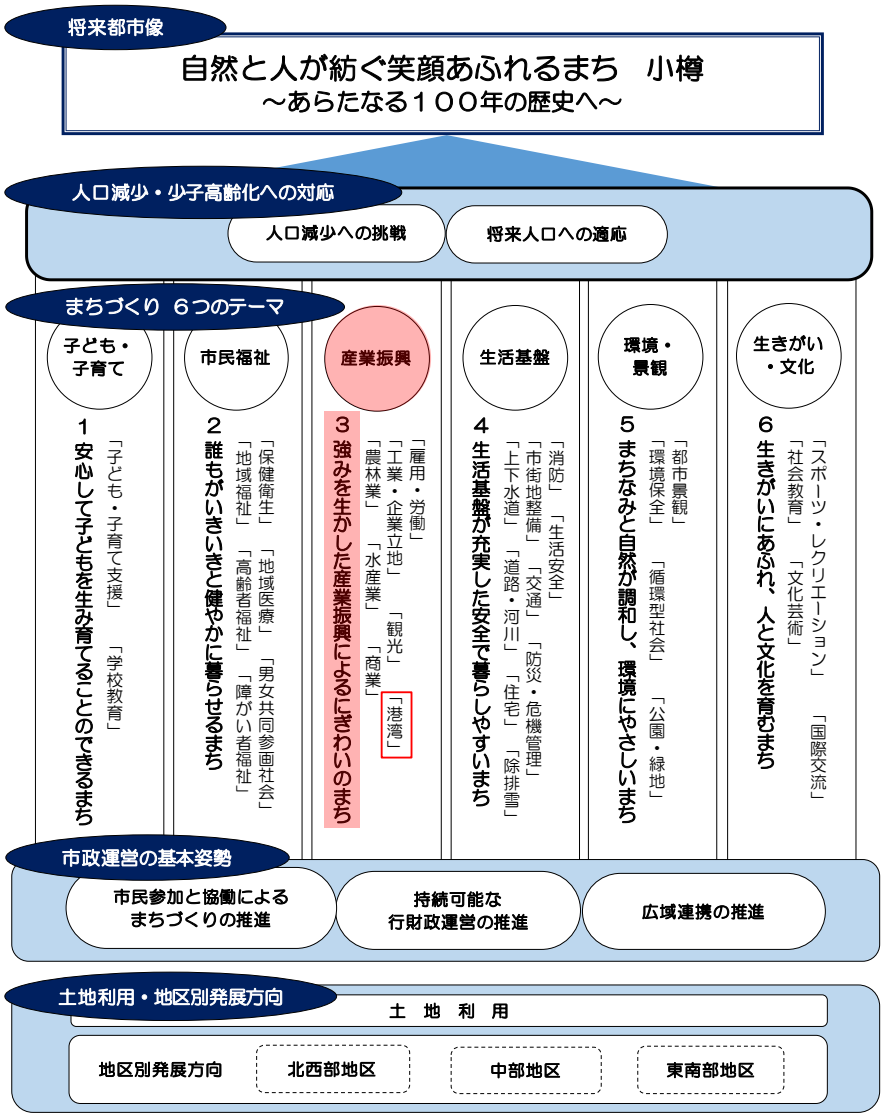
2.3　小樽市の関連計画

2.3.1 第 7 次小樽市総合計画

○ 令和元年 10 月策定

○ 計画期間：令和元年度～令和 10 年度

○ 策定：小樽市



＜港湾における施策の内容＞

★は重要な取組み

(1) 物流の活性化

★ 小樽港の利用促進に向けたポートセールスの強化
○ 中国定期コンテナ航路の拡充強化
○ 東アジア諸国やロシアなどの対岸諸国や北米地域などとの貿易促進
○ 長距離フェリー航路の利用活性化
○ 物流機能の集約化・更新による効率的な港湾空間の形成
○ ポートサービスの向上

(2) 「みなと観光」拠点の創出

★ クルーズ船の寄港促進に向けたポートセールスの強化
○ クルーズ船受入機能の拡充、歴史や文化、水辺を生かしたにぎわい空間を創出する第 3 号ふ頭及び周辺地域の再開発の推進
○ 第 3 号ふ頭及び周辺地域を核としたみなとオアシスの登録

(3) 安全・安心対策の推進

★ 計画的な老朽化対策による港湾機能の確保
○ 災害時における物流機能の確保、防災対策の推進
○ 港湾施設の適正な維持管理による安全性の確保

(4) 石狩湾新港との連携

○ 石狩湾新港管理組合への参画を通じた港湾施設の整備及び企業立地の推進による石狩湾新港地域の活性化
○ 小樽港と石狩湾新港との相互連携による両港の利用促進

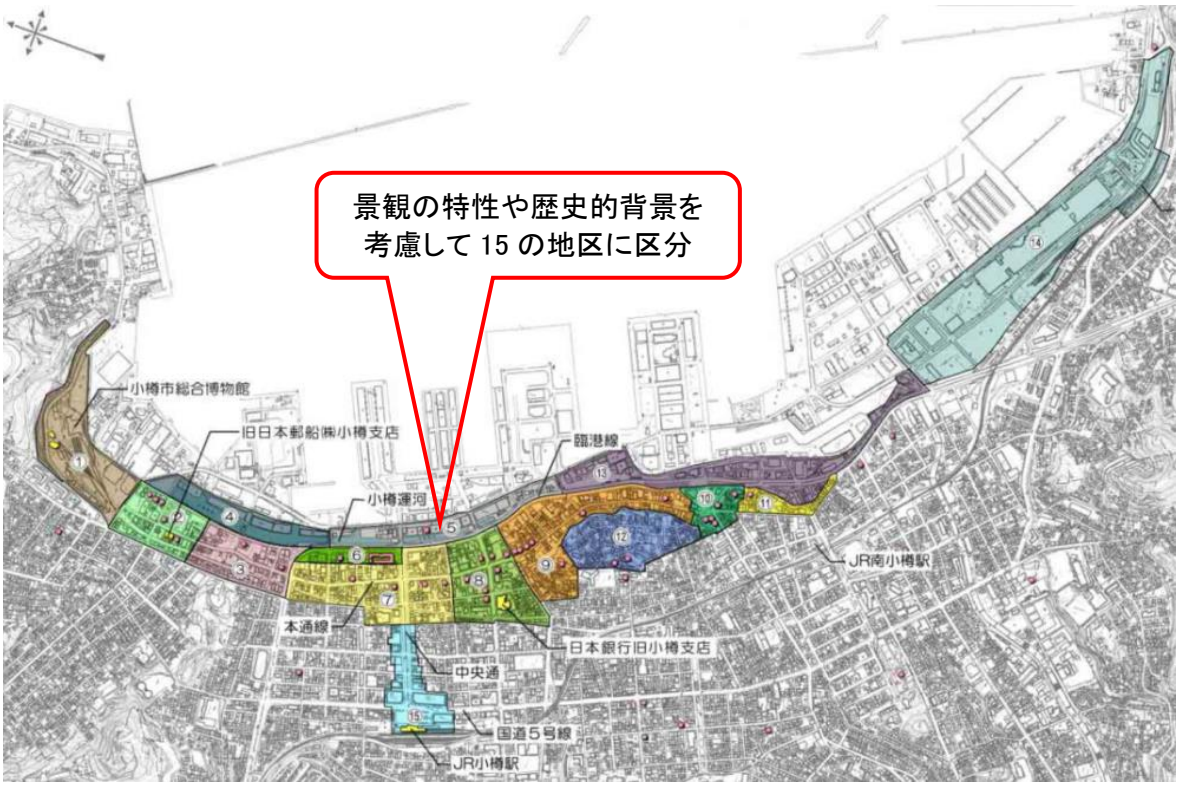
図 2.3.1　第 7 次小樽市総合計画

2.3.2 小樽市景観計画

○ 平成 21 年 2 月策定

○ 策定：小樽市

歴史、文化等からみて小樽らしい良好な景観を形成している重要な区域を「小樽歴史景観区域」に指定。小樽歴史景観区域の範囲は、小樽港の周辺地域を囲うように指定されている。



小樽歴史景観区域における良好な景観形成に関する方針

◆ 歴史的建造物周辺などの景観拠点の保全や新たな拠点の創出に努めるとともに、これらを結びつけることにより、小樽らしい歴史景観区域の形成に努めます。

◆ 景観拠点から市街地にのびる主要な道路沿いの景観や主要な交差点などで見られる景観など、それぞれの特性に応じた町並み景観の形成に努めます。

◆ 小樽歴史景観区域の景観効果を周辺地区へ波及させ、各地区の特性に応じた都市景観の形成に努めます。

図 2.3.2　小樽市景観計画

2.3.3 第二次小樽市観光基本計画

○ 平成 29 年 4 月策定

○ 計画期間：平成 29 年度～令和 8 年度

○ 策定：小樽市

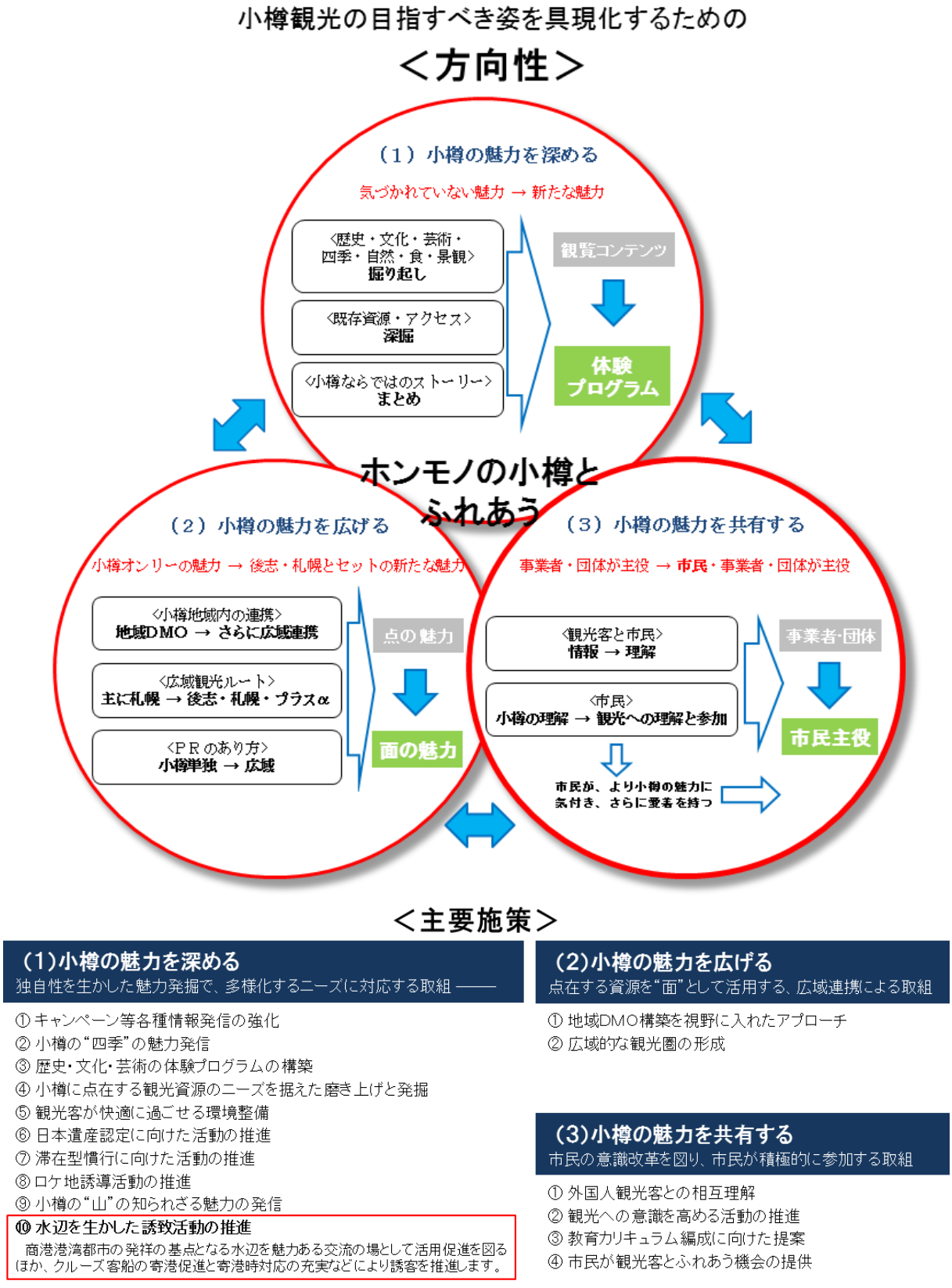


図 2.3.3　小樽市第二次観光基本計画

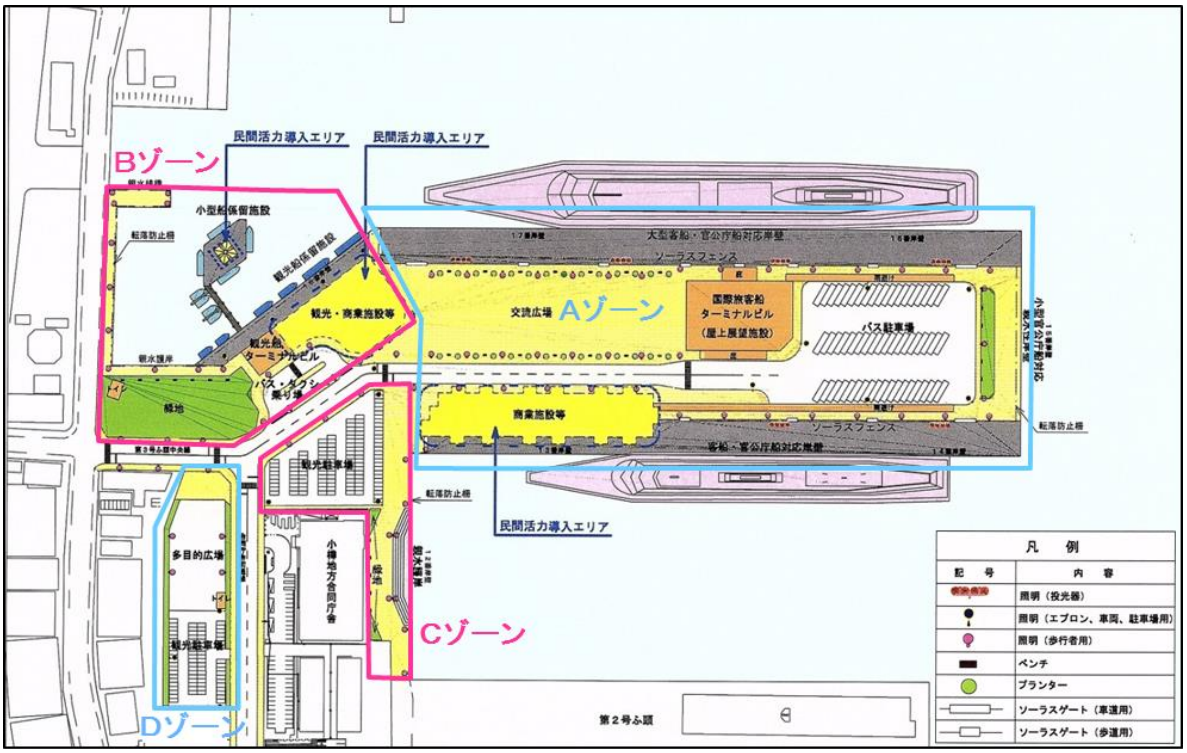
2.3.4 第 3 号ふ頭及び周辺再開発計画

○平成 26 年 6 月策定

○策定：小樽市

第 3 号ふ頭における国際旅客船ふ頭として整備し、さらなるクルーズ振興を進めるとともに、第 3 号ふ頭及び周辺区域を港の景観や水辺を生かしたにぎわいある交流空間とすることにより、小樽観光の新たな魅力の創出を図るため、平成 26 年 6 月に「第 3 号ふ頭及び周辺再開発計画」を策定した。

また、再開発計画では、市民アンケート、第 3 号ふ頭及び周辺再開発ワークショップからの提言、関係する機関、団体等からの意見を踏まえ、4 つのゾーンに分け、コンセプトや導入すべき機能を整理した。



ゾーン	導入すべき機能（施設）	ゾーン	導入すべき機能（施設）
A ゾーン	○客船対応岸壁 ○国際旅客船ターミナルビル ○バス駐車場 ○交流広場 ○親水性岸壁 ○商業施設等	B ゾーン	○観光船・小型船係留施設 ○観光船ターミナルビル ○バス・タクシー乗り場 ○緑地 ○親水護岸・桟橋 ○観光・商業施設等
C ゾーン	○親水護岸 ○緑地 ○観光駐車場	D ゾーン	○多目的広場 ○観光駐車場

出典：第 3 号ふ頭及び周辺再開発計画

図 2.3.4　第 3 号ふ頭及び周辺再開発計画施設配置計画図

2.3.5 若竹地区水面貯木場及び周辺有効活用計画

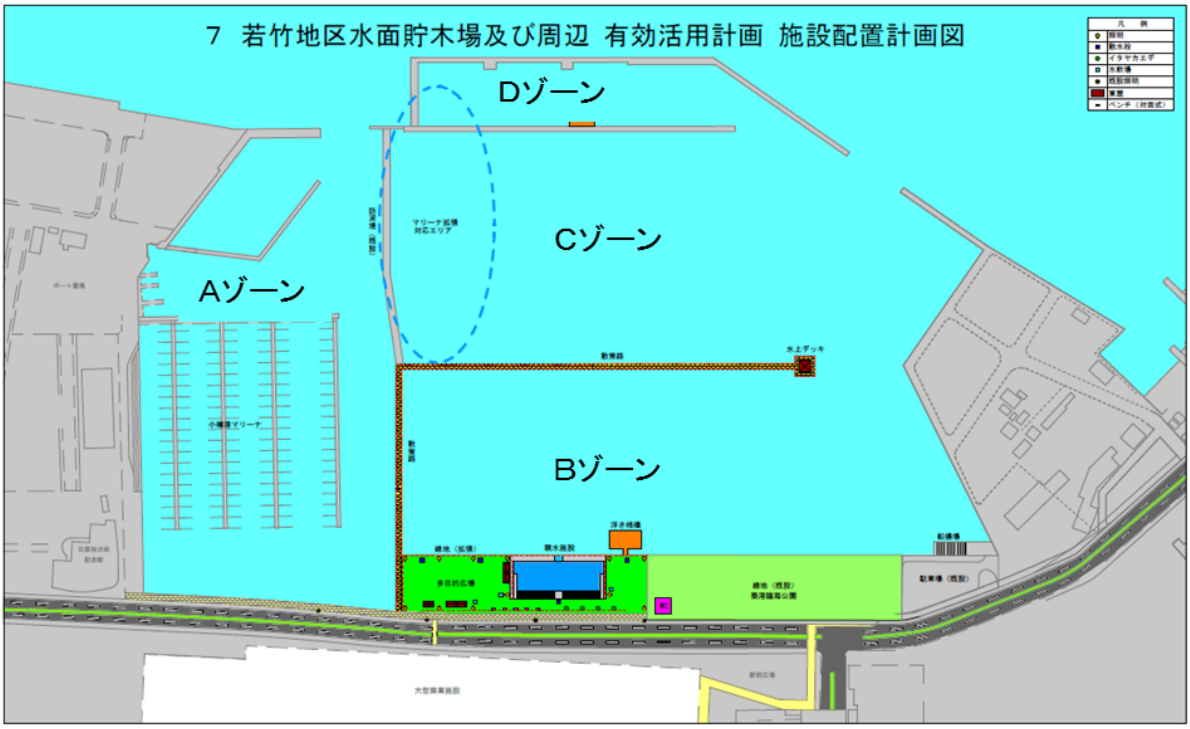
○平成 27 年 1 月策定

○策定：小樽市

若竹地区水面貯木場及び周辺について、親水機能の充実、水面におけるイベント等の利用環境整備など、ウォーターフロントとしての魅力を最大限に引き出すことにより、多くの市民や来訪者でにぎわうウォーターフロント空間の創出を図るため、平成 27 年 1 月に「若竹地区水面貯木場及び周辺有効活用計画」を策定した。

また、有効活用計画では、水面貯木場を活用してイベントの企画や運営している市民団体や市民からの意見を踏まえ、4 つのゾーンに分け、活用方針や導入すべき機能を整理した。

水面貯木場では、市民団体がボート天国、いかだレース大会や海上運動会などを開催しているほか、アクアスロン競技大会、市民レガッタ競技大会などが行われている。



ゾーン	導入すべき機能（施設）	ゾーン	導入すべき機能（施設）
Aゾーン	○マリーナ（既設）	Bゾーン	○緑地（既設、拡張） ○既存防波堤を拡張した散策路 ○親水施設 ○浮き桟橋 ○多目的広場 ○水上デッキ ○船揚場 ○駐車場 ○水面（イベントやクラブ活動用）
Bゾーン	→		
Cゾーン	○水面（小型船舶操縦士免許試験や教習用） ○マリーナ拡張対応エリア		
Dゾーン	○水面（畜養体験用）		

出典：若竹地区水面貯木場及び周辺有効活用計画

図 2.3.5　若竹地区水面貯木場及び周辺有効活用計画　施設配置計画図